

---

## 続・三題噺詰合

るっぴい

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

続・三題噺詰合

### 【Nコード】

N3240L

### 【作者名】

るっぴい

### 【あらすじ】

三題噺です。どこかで検索して見つけた単語で三題噺をします。

## 1・喋る大根（前書き）

お題『鏡・大根・100円玉』

お題提供：<http://sendai.cool.ne.jp/>

[suminowo/vol1.htm](http://suminowo/vol1.htm)

多謝です!!

## 1・喋る大根

初めてのお使いは、大根を買ってくるというものだった。

近所にある八百屋さんに行つて、百円を片手にお店の人に「大根をください」と元気よく言う。そうすればみずみずしい大根と、いくらばかりかのおつりを片手に家に帰れるはずだったのだ。右手に握る100円玉は薄く錆びて、それでも確かな手ごたえを少年に与えていた。少年にとっては、硬貨は力の象徴だったから、足取りもどこか勇ましい。

八百屋は家から近いし、迷いもせずに辿り着く。少年は到着すると大根を探した。自分がこれから征服するものを、先に一目見ておきたかったのだ。少年には高すぎる台が並ぶ狭い店内を歩くと、店のおじさんが声をかけてきた。

「なんだ坊主、何か探してんのか？」

「うん、大根を探してるんだ！」

「そうか、大根ならそっちだぞ。どれにするんだ？」

八百屋のおじさんが指さした方向には棚に乘せられたたくさんの大根が買ってくれる人を今か今かと待ちかまえていた。一本一本がみずみずしくて、サラダにしても煮物にしても凄く美味しそうだ。

少年は大根の山の中から一番大きいものを選び取ると、それを店主に見せる。店主はそれを受け取ると、天井に提げてある秤に乘せて重さを確かめている。

その時、少年の背後から声がした。

「おい、おまえ大丈夫なのか？」

声は大根の後ろにおかれた鏡の方から聞こえてきた。少年がじつと見てみると、鏡の中の大根にぱくつと口が開いて喋りだしたではないか！

「お前、大丈夫なのかよ。ここの大根は一本100円はするんだぜ？ お前が持つてるのなんて、たった100円玉じゃないか。それ

「じゃあお前に俺は買えないよ」

鏡の中の大根は秤を下ろされても口をパクパクさせて喋り続ける。周りにいる人は気付いていないみたいだ。少年はそのことに心躍った。僕は今喋る大根を抱えているんだ！

おじさんが少しだけまけてくれた大根を手に、少年は帰宅を急いだ。おこづかいはなくなくなっちゃったけど、喋る大根はみんなに自慢できる。そうだ、まずはお母さんに自慢しよう！

「あのねお母さん、この大根喋るんだよ！」

「馬鹿なこと言っていないでさっさと貸しなさい。大根おろしがなくちゃ秋刀魚はおいしくないのよ」

付け合わせの喋る大根はおいしかった。秋刀魚は少しだけしゃべったけど。

## 1・喋る大根（後書き）

大根おろしはおいしいです。秋刀魚と合わせるとGOOD！

次回のお題は『雑誌』『網』『油性マジック』です。

## 2・棺桶（前書き）

お題『雑誌』『網』『油性マジック』

お題提供：<http://sendai.cool.ne.jp/>

[suminowo/vol2.htm](http://suminowo/vol2.htm)

前回到引き続き、感謝です！

## 2・棺桶

サイコロなどの小さいものを積み上げて巨大な建造物を作るといふ遊戯がある。代表的なのはトランプタワーだろうか。

たとえ高く積み上げたとしても得られるものはちつぽけな名誉だけ。だが、それにもかかわらず、ついついやつてしまうのである。つまりは日常生活において意味のないことほど、趣味としては優良なのである。

しかし、彼女の行っている作業は趣味という段階をすでに超越していた。

彼女がいるのは小さなアパートの一室だが、そこに積み上げられた油性マジックはもはや彼女が部屋に入るのを拒絶するほどに大きく育っている。小さな通路を一つ残して、アパートのその部屋は完全に色とりどりの油性マジックで埋め尽くされているのだ。積み上げられたマジックは規則正しく、自重に耐えうるほどの強度を持っていた。天井にぐいぐいと押し付けられるマジックたちは、たとえ地震が起こったとしても部屋が無事ならば耐えられるだろう。

一部は網のようなもので固定されているが、それ以外の部屋中を埋め尽くしたそれは毒々しく完成されている。あと少し並べれば、この部屋は完全にマジックに取り囲まれてしまうだろう。

彼女はふんふんと鼻歌を歌いながら室内に入ると、ビニールから一冊の雑誌と数十本はあるだろうマジックを取り出した。

「ふんふ、ふんふ、ふんふふん」

彼女は雑誌に掲載されている漫画をじっくりと、穴でも開けるほどの眼力をこめて読んでいく。時折つまらなさに手を動かしては、無造作に油性マジックを掴んで網の部分にはめていく。寸分の狂いなくびつちりと。

彼女が漫画を読むスピードはお世辞にも速いとは言えなかった。しかし、遅いとも言えなかった。ただじつくりと読んでいるだけ、



どちらかというマジックタワーを作り上げることの方が重要なことであるかのように感じられる。網を少しだけはがして、マジックを押し込み、ねじ込み・重ねた。

雑誌をほとんど読み終わった頃には、彼女の手元から油性マジックは全て消えうせていた。

「……あ。この漫画終わっちゃったんだ……」

結構好きだったんだけどなあ……、と彼女は口の中だけで呟く。

「まあでも……」

彼女が部屋の中を見渡す。色とりどりの、見事な箱が出来上がっていた。

「私も終わったし、いつか」

巨大な檻を揺り籠に彼女はとろんと眠りについた。

## 2・棺桶（後書き）

私にはあんな細かい作業は無理です。残念。

次回のお題は『あんこ』『携帯電話』『パイプベッド』ですね。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3240/>

---

続・三題噺詰合

2010年10月9日03時17分発行